

## 1. おう吐物凝固剤の除菌対象について

除菌性能を発揮する対象については、おう吐物そのものになります。

また、おう吐物凝固剤と接触する床面に対しても、おう吐物と同様に除菌されていると推定できますが、当社ではさらに確かな除菌をする目的で、おう吐物処理救急箱に入っている除菌剤を塩素濃度 1000ppm 以上になるよう水で希釈しスプレーして、ウエスでの拭き上げをするようにしています。作業手順は、当社HPから動画ユーチューブを見れるようにしています。除菌性能の詳細については、以下の技術解説をご参照ください。

## 2. おう吐物凝固剤の除菌性能について

除菌性能試験については、「試験菌液 10ml に検体 4g を添加し、試料とした。」としました。これは、実際の現場でのおう吐物中の水分を 100ml と見積もり、凝固剤 40g を使用するので、除菌の試験方法と量的な関係が一致し整合性をとりました。すなわち、おうと物凝固剤（除菌効果試験の検体）の除菌性能については、大腸菌の菌液に検体を添加する方法で調べ、試験菌液 10ml に検体 4g を添加したものでは、開始時 860,000 の菌数が 1 分後に 100 以下（検出限界以下）となり、除菌されることを確認しました。

なお、厚生労働省のノロウイルスに関する Q&A において、おう吐物の消毒には塩素濃度が 1,000ppm 以上の次亜塩素酸ナトリウムが推奨されています。一方、おう吐物凝固剤 40g 中のジクロロイソシアヌル酸ナトリウムがおう吐物の水分 100ml に溶解した場合、塩素濃度は約 3,800ppm となり、ノロウイルスの消毒には十分な塩素濃度になると推定されます。但し現場での実際では、おう吐物や凝固剤中の有機物によっても塩素が消費されるので、少し多めの塩素濃度に設定しています。

ちなみに、3, 800ppm の計算方法は、ジクロロイソシアヌル酸ナトリウムの分子量 220、その内塩素の量が 70 なので、塩素の割合は約 32%。凝固剤 40g x ジクロロイソシアヌル酸ナトリウムの配合量 3% (SDS に明記) x 塩素の割合 32% = 0.384 これを 100mL の水に溶解すると塩素濃度は約 0.38%、つまり 3,800ppm となります。

以上

和光産業株式会社  
技術顧問 工学博士 木庭秀明  
2018年11月14日